

みやこんじょ



No.66

発行日 令和4年1月1日
 発行 独立行政法人国立病院機構
 都城医療センター
 宮崎県都城市祝吉町5033番地1
 TEL 0986-23-4111

基本
 理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心して、信頼できる病院をめざします

謹賀新年

院長 吉住 秀之

「それゆえ、この心の^{おの}懐きと闇を払う必要があるが、それは太陽の光線や昼の光によってではなく、自然の^{ことわ}姿と理りによるしかない」

(ルクレティウス『物の本性について』)

あけましておめでとうございます。

日本のコロナウイルスワクチン接種率は順調に上がり、12月17日時点で77.6%（2回接種完了）となっています。第五波の感染の後には、小康状態が続き、経済活動も再始動しつつあります。本年がさらにコロナウイルス感染症が収束に向かい、安心して暮らせる生活に戻る年となることを願ってやみません。

今回のパンデミックにより私たちの世界は大きな変化を経験することとなりました。まずは、誰もが経験したように日常生活様式が大きく変化したことです。外出時はマスク着用が基本となり、会話も小声でするようになりました。外国では対面時のキスやハグが控えられていると聞きます。働き方においては、リモートワークが普及し、医療現場にも遠隔診療が導入されたり、学会はリモート環境での参加となったりという変化がみられました。

これらの変化により、今までの日常のなにげないコミュニケーションの大切さに気づかれた方も多々と思います。対面でのつながりを失ったために自殺者が増えていることは憂慮すべきことです。それゆえ日常診療においては、限られた貴重な時間の中で患者の皆さんの悩みや不安を受け止め、手際よくかつ漏れなく診察することの大切さを肝に銘じな

ければならないと思いました。同時に感染症に対するぬかりない対策は、今も昔も医療の基本だということです。歴史的に見ると医療は、長らく天然痘や麻疹、コレラ、インフルエンザという感染



症に対処するための施術として発展してきたこと、そしてその恐怖から解放されてからまだそれほど時間は経っておらず、世界全体をみるとまだ多くの地域では感染症で多数の人命が失われていることを再認識しておかねばなりません。

感染対策にあたっては、病原体の正しい知識に基づいて実践していくことが基本になります。今回のコロナ禍においても、科学的に根拠のない憶測やデマが飛び交い、いわれのない差別や偏見に苦しんだ人々がいました。科学的に正しい情報を冷静に受け止めて行動することは、私たちが明日に向かって進む際のこの上ないよき指針となります。

冒頭に引用したのは、古代ローマの哲学者で、当時としては珍しく原子論的なみかたで自然を即物的に理解しようとした人の言葉です。古代ギリシア文明の衰退がアテネでのペスト流行であり、ビザンツ帝国のペストのパンデミックが古代ローマの文明の終焉をもたらす要因になったことを歴史は教えています。今回のコロナ禍で起きた社会的分断は、人間がいかに不安に弱い生き物であるかということも、私たちが科学的な^{ことわ}理りに基づいた冷静な判断で医療を提供し、地域に貢献していきたいと思

消化器病センターの紹介



消化器病センター長
駒田 直人



消化器病センター医師
藤原 利成

2015年5月に消化器病センター開設以降、約6年7ヶ月が経過しました。これまで消化管疾患を中心として診療にあたって来ましたが、地域の先生方から多くのご紹介を頂くようになり大変感謝しています。

上部消化管検査ではこれまで同様、狭帯域光観察（NBI：Narrow Band Imaging）を用いた胃癌・食道癌の早期発見、下部内視鏡検査では拡大内視鏡を用いた大腸腫瘍の診断も積極的に行っており、おかげさまでEMR（内視鏡的粘膜切除術）やESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）の件数も増加してきていますが、消化管拡張術・ステント挿入術等もご依頼を頂く事が多くなってきています。今後も患者さんにとってより低侵襲な治療を目指していきたいと考えています。

また、藤原医師のライフワークでもある炎症性腸疾患診療は患者数が増加し続けていますが、今後もさらに増加すると予想されますので、さらなるステップアップを目指して行きたいと思えます。

栄養療法につきましてもNST（Nutrition support team）専門療法士教育認定施設として40時間研修を行い、県外よりの参加者も多く需要の高さを感じているところでしたが新型コロナウイルスの蔓延により現在は開催が中断されたままです。早期に再開できることを願っています。

日本は世界に名だたる長寿国であり、施設や在宅での経管栄養管理が必要な患者さんも年々増加してきていますので、胃瘻造設やメンテナンス・栄養管理等につきましてもご紹介をお願い致します。

当センターでは外科の先生方の協力を頂きながら、消化器内科は消化管内科分野としてより良い医療を提供するため、地域の中核病院として他基幹病院やご開業の先生方のご協力を得ながら努力し、センターの拡充を図って行きたいと思っていますのでご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

（消化器病センター長(消化器内科) 駒田 直人)

「緩和ケア研修会を開催しました」



令和3年11月21日(日)に、緩和ケア研修会を開催しました。

緩和ケア研修会は、がん等の診療に携わる全ての医療従事者が、基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術を修得することを目的としています。また、がん診療連携拠点病院の指定要件として、プログラムに準拠した「緩和ケア研修会」を定期的実施することが明示されています。昨年度は新型コロナウイルスの流行に伴い中止を余儀なくされましたが、今年度は参加者を少人数とし感染対策をすることで開催することができました。

研修当日は、医師、看護師、薬剤師、栄養士、作業療法士の計8人が参加しました。講師には、三州病院の横山晶子先生をはじめ、宮崎大学医学部附属病院の緩和ケアチーム担当医の山賀昌治先生、精神腫瘍学の船橋英樹先生をお招きしました。

研修会では、がん告知の場面を想定し、告知を受ける患者役、告知をする医師役になりきりロールプレイを実施したり、がん患者の全人的苦痛に関してアセスメントを行い、自宅療養に移行するための医療サービスを検討したりと、様々なプログラムを実施しました。先生方の講義では、包括的アセスメントや症状緩和の具体的方法についてご指導いただき、私自身、症状緩和の問題解決の糸口となる知識や、すぐにでも実践したい情報を学ぶことができました。また、グループワークでは、医師や看護師、薬剤師、栄養士、作業療法士など多職種が参加したことで、それぞれの専門性を活かした討議につながり、患者の苦痛への対応として多職種で関わることの重要性を感じることができたと思います。

参加者からも「普段から多職種でカンファレンスをしたかったです。」「一日の研修だったけど、あっという間に感じました。いろんな職種の方と話ができて楽しかったです。」と感想を聞くことができました。

次年度も緩和ケア研修会を企画していきますので、多くの方に参加いただきたいと思います。今後も最新の緩和ケアの知識を共に学び、緩和ケアの実践、がん診療体制の向上につないでいきたいと考えます。

(緩和ケア認定看護師 清武 香)



連携医療機関のご紹介

医療法人 宏仁会

メディカルシティ東部病院

住所：宮崎県都城市立野町 3633-1

電話：0986-22-2240

FAX：0986-25-8646

診療科目：外科、内科、循環器内科、消化器内科、
消化器外科、整形外科、放射線科、救急科、
リハビリテーション科、腎臓内科、人工透
析内科、肝臓外科、脳神経外科、アレルギー
疾患内科

休診日：土曜午後、日曜祝祭日

院長 東 秀史 先生



当院は平成22年に増築し、これまでは133床の「介護病棟のみの病院」でしたが、111床の一般急性期病床（ICU・地域包括病床を含む）と32床の療養病床に切り分け、名称も海老原記念病院からメディカルシティ東部病院へ変更し現在に至っています。

メディカルシティという名称は日本人にとってあまりなじみがありません。我々の理想は医療スタッフと患者さんが同じ目線で毎日過ごせる生活空間の創造でした。

この発想は、バンコクのバムルンラード・インターナショナル病院を見た時の驚きにありました。病院の玄関から2階のバルコニーに登れば、そこには町が現れます。レストランやお土産の店が鮮やかな色どりとともに。

又、JR都城駅からここまで東西に走る幹線道路の沿線をメディカルシティと位置付けるべきではないかと考えます。この病院もその一環ですが、シティの中にはさまざまな病院も並んでいます。それらをひとつのグループとして位置づけて患者さんが行き来する。シティの東にある東部病院と意味づけたほうがわかりやすい。それがメディカルシティ東部病院という名称の由来です。

当院の特徴は、専門分野としての救急医療、がんの先端治療や化学療法、脳・脊髄に対する治療、循環器疾患や、アレルギー疾患（喘息）の治療、消化器の検査と治療、人工透析、老人病の高度管理であり、この技術レベルは責任をもって維持されるべきもの。そのための医療スタッフの確保や医療機器の選定には特に配慮しています。

尚、肝臓がんに関しては、宮崎県工業技術センターと共同開発した、WOWエマルジョン（ファモルピシンを含んだピリオドールの粒子を肝臓に注入）と呼

んでいる治療も行っています。

ウェルネスシティ都城に出現したメディカルシティは、都城市の市民の健康福祉の向上を目指し、他の病院との連携に力を入れています。皆様のご支援をお願い申し上げます。



誓いの式

私たち75回生は、誓いの式を終え、看護学生という自覚や意欲が更に強くなり、クラス全員で協力し日々頑張っています。

誓いの式の準備では、自分自身にも誓えるよう、そして全員の想いが伝わるよう準備してきました。誓いの言葉を考えるにあたっては、「今ある環境への感謝」「患者に向き合い、寄り添いたい」「仲間と共に励まし合う」など、言葉に多くの想いを込め、75回生誓いの言葉としました。誓いの言葉を考えていく中では、自分の決意を確認するだけでなく、クラスメンバーの想いや目指す看護師像を知ることができ、とても良い機会となりました。

昨年同様コロナ禍での開催ということもあり、試行錯誤し、空き時間や放課後をつかって練習に励みました。自分たちの動きを客観的に見て、それぞれが意見を出し合い、改善していくことができました。日を追うごとに、クラスの団結力が強くなっていくのを感じることもできました。

私たちは、それぞれが目指す看護師像を白いガーベラの型紙に書き記しました。白いガーベラには「希望」という花言葉があります。文字に記すことで、改めて自分がどんな看護師を目指すのか明確になりました。その目標に向けて、希望を持って、全員で励まし合いながら頑張っていきます。

(75回生誓いの式実行委員 安藤 茉鈴愛)

私の目指す看護師像

患者さんから知識や技術のうえでも、関係性の上でも安心感をもってもらえるような看護師を目指します。
安藤 茉鈴愛

患者さん自身の生活に大いに寄り添い、患者さんの痛みや悩みを看護師が理解しやすくなる。
瀧田 梨唯

患者さんより信頼される看護師を目指したい。そのために、知識、技術の修得、コミュニケーション力の向上に努めている。
門川花恋



外来診療科別週間担当医当番表 独立行政法人 都城医療センター 国立病院機構

【全診療科 初診予約制】 受付時間 8:30 ~ 11:00

【2021年12月1日】

Table with columns for medical department (診療科名等), day of the week (月曜日, 火曜日, 水曜日, 木曜日, 金曜日), and doctor names. Includes departments like Internal Medicine, Pediatrics, Surgery, etc.

※1 全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いいたします。
※2 医療機関の方へ:血液内科、リウマチ科の初診については、事前に初診紹介予約申込書と共に、最新の血液データを送ってください。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120) 411-329 FAX (0986) 26-1893



独立行政法人 国立病院機構

都城医療センター (地域がん診療連携拠点病院・地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-24-3864
E-mail/621-miyakonojo@mail.hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp
編集発行: 広報委員会